

「名立区」の将来ビジョン

ありたい姿(キャッチフレーズ)

名立区らしさである豊富な資源を活かし、
地域の連携や発信により、名立を日本中に売り込みます

実現するための4つの柱(方向性)

担い手・後継者の確保



- 「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への集積など、地域内でできる対策を講じます。
- 将来に向けて、集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。
- 将来的には、移住・定住者を増やします。

農業生産維持に向けた 作物選定・所得確保



- 名立区「らしさ」「ならでは」を活かし、「山・水・農・海」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「名立ブランド」を確立させます。
- SNSやネット販売などを通じて名立ブランドを発信します。

農業機械・スマート農機 の共有化・共同利用



- 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。
- 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせた一体的な対策を講じます。

土地利用の明確化・ 農地条件の改善



- 地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。
- その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業施設の整備・修繕等を実施します。

アクションプラン

短期

令和5年度からの取組 ⇒ 「ロードマップ」を参照

中長期

区分	取組内容	いつ	だれが	どうやって
農業機械	農作業共同化組織の設立	10年後	JA青年部	直払棚田加算
土地利用	観光・家庭菜園農地の貸出	10年後	集落協定	最適土地利用対策
土地利用	基盤整備の実施	未定	土地改良区	農業農村総合整備対策

事務局的作用を担う「活動のエンジンとなる組織」

「名立区農業振興協議会」を中心とする区内農業団体(集落協定・多面組織等)の協議体

現状と方向性

- 過疎化高齢化により、幹線用水の維持管理や特産品である梅の生産にあたる人員が不足
- 将来の担い手にもつながり得る外部人材の受入れノウハウなどが不足

過疎化高齢化による人材不足は区内共通の問題であるが、受入れや情報発信のノウハウが不足しており、これら区内共通の課題に向き合う組織として、地域マネジメント組織である「名立区農業振興協議会」の機能強化を図り、中山間地域等直接支払交付金の集落協定や多面的機能支払交付金の活動組織等を交えた協議体を形成し、各種取組を下支える。

【名立区】グループワーク

～取組の実践に向けたロードマップ～(令和 5 年 4 月 12 日決定)

グループ名「 担い手 」

取組内容	令和5年				令和6年				令和 7 年		令和 8 年		令和 9 年		令和 10 年		令和 11 年	
①農業体験の受入に向けた体制整備 【事業主体:名立区認定農業者会】	受入先の設定 (農家・地域)																	
②農業体験希望者の受入 【事業主体:名立区認定農業者会】					○農業体験希望者の受入募集						○おためし農業体験者の名立区での就農							
					・市・県HPを活用 ・新・農業人フェアや各種就農フェア等への出展による募集(市事業の活用)						・国・県事業等の活用による機械施設等の導入支援 ・担い手協議会や各機関・団体等による技術指導や経営支援							
③担い手の募集 【事業主体:名立区認定農業者会】					○体験希望者と合わせ担い手となる候補者も募集						○地域内における担い手農業者の確保							
	○名立区内の後継者を望む者の把握 ・受入先アンケート調査とあわせ実施										・国・県事業等の活用による機械施設等の導入支援 ・担い手協議会や各機関・団体等による技術指導や経営支援							
④農業体験の実施 【事業主体:名立区認定農業者会】					○受入先農家での農業体験の実施(市のおためし農業体験等の事業活用)													
					・体験者への聞き取り ・聞き取り結果を今後の体験事業の改善に活用													
⑤空き家情報の発信 【事業主体:市】					空き家情報の発信(市・県HPを活用)													
	○名立区内における空き家情報の把握 ・自治会長へのアンケート調査等により実施				・地域の担い手となる者への空き家の斡旋 ・各種補助事業による空き家リフォーム支援													
⑥農作業の協同化 【事業主体:農家組合・関係機関】	集落(地域)内での話し合い										○集落営農組織・法人の設立 ・法人設立支援事業の活用や農業機械・施設等の導入支援事業の活用							
	・担い手協議会や関係機関・団体等による設立に向けた支援 ・先進地への視察研修や設立に向けた各種研修回答への参加										・農業体験希望者の受入 ・就業者の確保							

※基本は名立区認定農業者会が中心となって実施するが、名立区内全体を対象とするアンケート調査の実施等については対象範囲が広く、また、実施できる対象組織がないため別に対応をお願いしたい。

【名立区】 グループワーク

～取組の実践に向けたロードマップ～(令和 5 年 4 月 12 日決定)

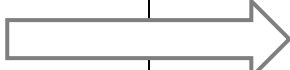
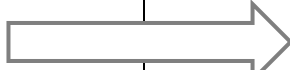
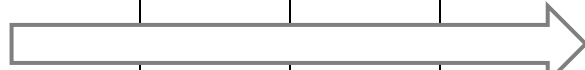
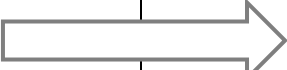
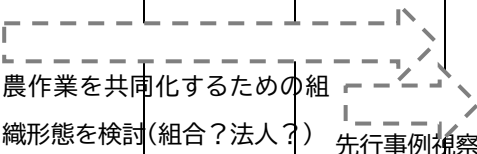
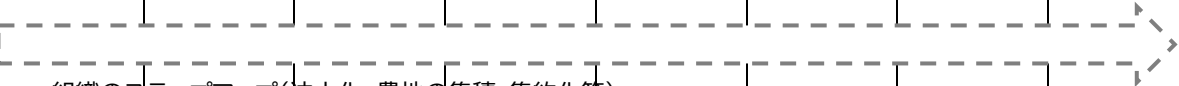
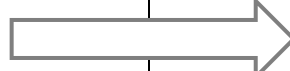
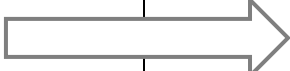
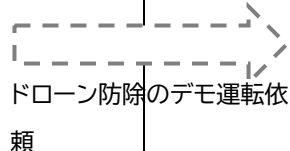
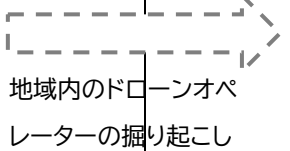
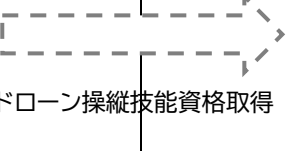
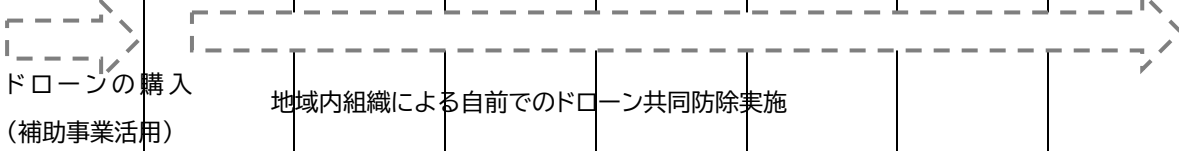
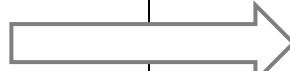
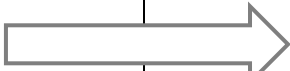
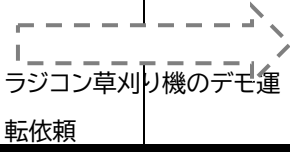
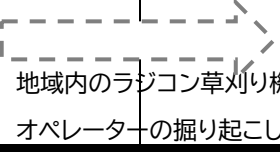
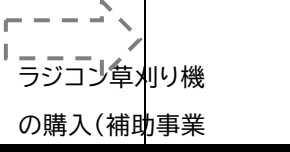
グループ名 「 作物選定 」

取組内容	令和5年	令和6年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年
梅を新植する	梅の老木化の状況把握 新植可能地の検討、補植の検討 (平場での新植も検討)	梅の新植・補植 (市単補助事業の活用も検討)	既存梅の収穫				新植、既存梅の収穫
	中心的組織 ・名立梅栽培組合	梅組合を核とした組合員の募集・拡充 (高齢化はあるが収穫時期が他と重複しない。 獣害が無い。)					
ソバを生産・拡大する	中心となる組織の把握（宇山耕作組合、折居ソバ生産組合 他） ソバ栽培の意向の確認（他地域でのソバ栽培の意向について確認） 組織間の連携構築（折居汎用コンバインでの刈取り連携） ソバの生産・拡大（市単補助事業の活用も検討）及び生産拡大に向けた実証実験						
	ソバを活用したイベントの検討・実施						
	中心的組織 ・宇山転作組合 ・折居ソバ生産組合	秋麦作等の調査・研究・検討			検証結果の整理		
	特産品の開発						
情報を発信する	地域全体の情報発信拠点の検討 情報発信形態の検討（インターネット、ホームページ作成） ・宇山耕作組合ホームページ更新 ・輝く里不動の会のホームページ等での発信 ・新商品のPR						

【名立区】 グループワーク

～取組の実践に向けたロードマップ～(令和 5 年 4 月 12 日決定)

グループ名 「 農業機械 」

取組内容	令和5年		令和6年		令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年
農作業の共同化を進める	 農作業の共同化を希望する農業者の実態把握 (農業者アンケート)	 具体的にどの作業が共同化できるのかを検討	 新たな組織の立ち上げ準備(必要に応じて)		 新たな組織の立ち上げ、運営開始(必要に応じて)				
		 農作業を共同化するための組織形態を検討(組合?法人?) 先行事例視察		 オペレーターの明確化	 共同利用機械の購入(補助事業活用)	 組織のステップアップ(法人化、農地の集積・集約化等)			
ドローンによるカメムシ防除を共同で実施する	 カメムシ防除の実態把握(共同?個人?)	 ドローン防除希望調査、とりまとめ	 防除委託業者選定、委託料交渉		 ドローンによるカメムシ共同防除の実施				
		 ドローン防除のデモ運転依頼		 地域内のドローンオペレーターの掘り起こし	 ドローン操縦技能資格取得	 ドローンの購入(補助事業活用) 地域内組織による自前でのドローン共同防除実施			
ラジコン草刈り機による法面除草の共同作業	 法面除草の実態把握(共同?個人?)	 ラジコン草刈り機による除草希望調査、とりまとめ	 ラジコン草刈り機による法面除草の共同実施						
		 ラジコン草刈り機のデモ運転依頼	 地域内のラジコン草刈り機オペレーターの掘り起こし	 ラジコン草刈り機の購入(補助事業)					

